

東北モビリティ・プロジェクトの取り組み

当社は、トヨタの「一過性ではない東北復興支援」という想いのもと、2012年7月に設立され東北でのものづくりの基盤強化を通じ、地域の皆様と共に東北の復興に向け取り組んでまいりました。

東北が抱える人口減少、高齢化による公共交通路線減少などの課題解決を目指し、2020年より『東北モビリティ・プロジェクト』を立ち上げ、宮城県と移動課題解決に向けた検討を開始しました。

本プロジェクトは、震災の被害が大きく、居住地の高台移転に伴う移動課題が顕著であった宮城県気仙沼市・南三陸町・女川町を活動拠点とし、2022年3月には3市町、宮城県、住民代表と連携し、『東北モビリティ・コンソーシアム』を設立しました。

「現地現物」での調査、地域ごとの課題および解決策の検討を経て、2023年度は各市町の皆様のご協力をいただき、実証実験を行ってまいります。

<東北モビリティ・コンソーシアム 体制>



【事務局】トヨタ自動車東日本・気仙沼市・南三陸町・女川町

気仙沼市



南三陸町



女川町

横串活動・技術/サービス分科会
トヨタ自動車（先進技術開発カンパニー等）

【アドバイザー】宮城県（自動車産業振興室）、トヨタ・モビリティ基金

<2023年度の主な実証実験予定・活動内容>

気仙沼市：既存交通路線の再編、デマンド交通の導入
南三陸町：デマンドバス（予約制）などの交通再編
女川町：モビリティ・マネジメント、先進モビリティ活用検討



女川町：シーパルピア女川ロボット走行会
(2023年6月21日)



南三陸町：入谷地区デマンドバス運行開始
(2023年7月3日)